

授業科目 骨・関節病理組織学

【担当教員名】 田巻 弘之		対象学年	3・4	対象学科	理学
		開講時期	後期	必修選択	選択
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		◎	
【概要・一般目標：GI0】 関節可動域障害に関する病態並びに予防や治療方法について理解を深め、骨及び関節周囲の軟部組織の構造と機能並びにその病理について組織細胞レベルで学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1) 不動による関節可動域制限の要因を理解するために、骨格筋、腱、靭帯、関節包、関節軟骨等の廃用性変化を組織、細胞、分子レベルで説明することができる。 2) 関節可動域制限の改善につながるリハビリテーションアプローチを創意工夫できるように、運動療法や物理療法の効用について組織、細胞、分子レベルで解釈することができる。 3) 関節拘縮の責任病巣究明に関する報告や図表を観察して、その情報の本質や問題点を抽出し、自己の考えや疑問点を言語で述べることができる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	骨及び関節の病変と関節可動障害－骨及び関節の病理と生理－			1, 3	担当：田巻 弘之
2	不動による関節可動域制限の実際－拘縮と制限因子－			1, 3	担当：田巻 弘之
3	不動・加齢と関節可動域制限－骨格筋－			1, 2, 3	担当：田巻 弘之
4	不動・加齢と関節可動域制限－結合組織－			1, 2, 3	担当：田巻 弘之
5	不動・加齢と関節可動域制限－腱及び靭帯－			1, 2, 3	担当：田巻 弘之
6	不動・加齢と関節可動域制限－骨及び軟骨－			1, 2, 3	担当：田巻 弘之
7	関節可動域制限と運動療法－効用を模索して－			1, 2, 3	担当：田巻 弘之
8	関節可動域制限と物理療法－最先端と次世代への取り組み－			1, 2, 3	担当：田巻 弘之
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		関節可動域制限	沖田実	三輪書店	2010・2,800円＋税
その他の資料					
【評価方法】 試験結果、授業への取り組み等を総合的に評価する。			【履修上の留意点】		